



風しんの追加的対策 抗体検査実施促進の取組について

武田薬品工業株式会社
2024年12月（更新報告）

風しんの追加的対策における当社の取組



風しんの追加的対策（抗体保有率の低い世代の男性に対する予防接種・抗体検査の実施）

- 対象者：1962（昭和37）年4月2日から1979（昭和54）年4月1日までの間に生まれた男性
- 実施期間：2019（平成31）年から2024年（令和6年）度末まで
- 実施方法：市町村は抗体検査を実施し、結果が陰性であった者に対して風しんの定期接種を行う。具体的には、市町村は対象者に全国で抗体検査・予防接種を原則無料で受けられるクーポン券を送付。クーポン券は健診でも利用可能。

厚生労働省 風しんに関する追加的対策 骨子（平成30年12月13日）、令和元年9月10日 国の風しん対策活用セミナー（令和元年9月10日）資料より抜粋

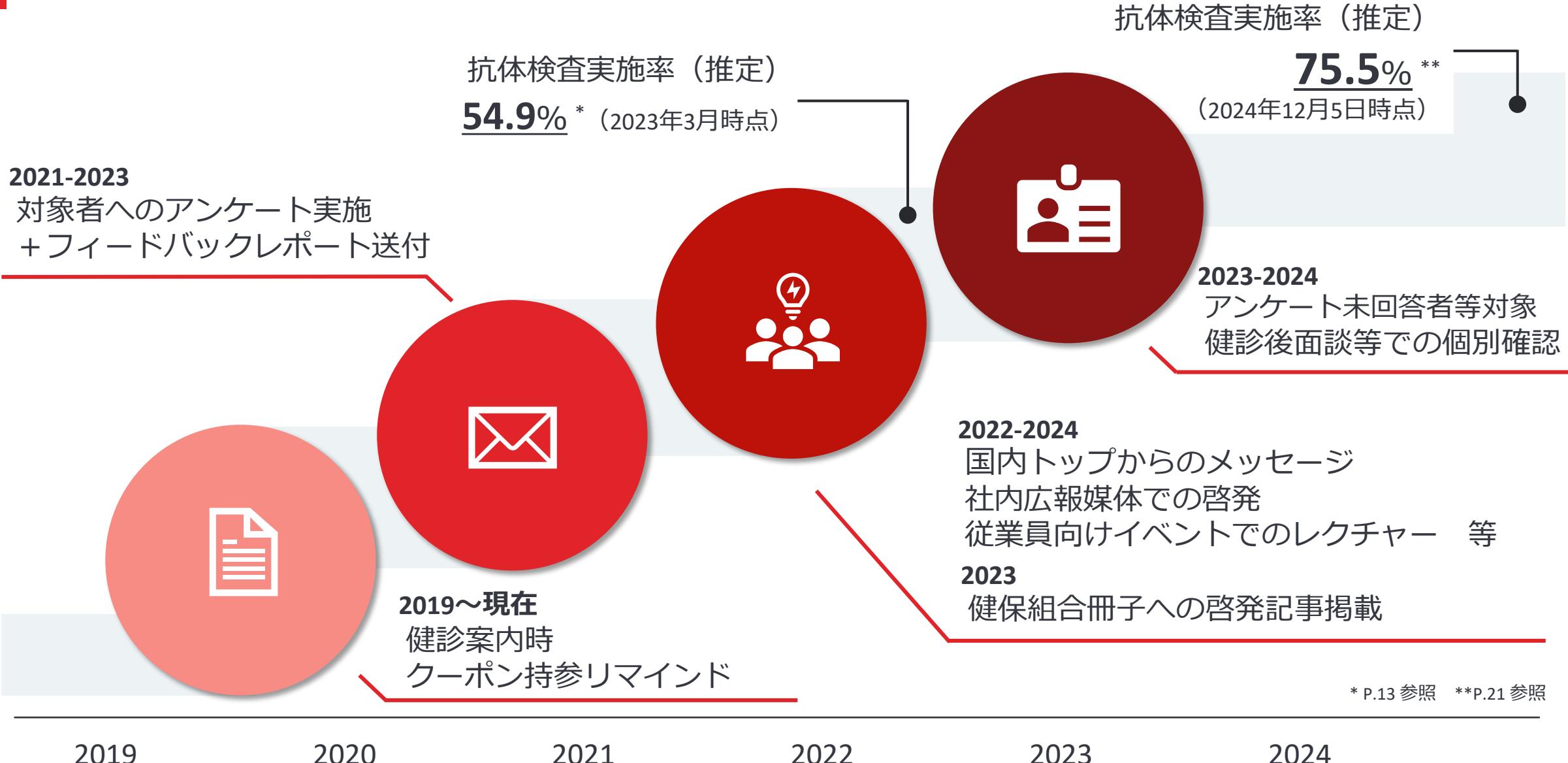
当社の取組概要

- ✓ 2019年からの風しんの追加的対策において、厚生労働省から健康診断の実施主体である企業に対して、健康診断実施時にクーポン券が利用できるよう協力依頼があり、当社では、健診を担当していた社内診療所が集合契約に登録し、体制を整えた
- ✓ 部門横断的なプロジェクトを立ち上げ、社内の風しんの追加的対策対象者（以降、対象者）に対して、追加的対策の周知や、抗体検査受検有無の確認※1を行った
 - 2019年～2024年現在：健診案内時に、対象者には健診時にクーポン券の持参を呼びかける通知を同封
 - 2021年～2023年3月まで：アンケート※2送付による抗体検査受検有無の確認（計4回実施）、アンケート結果の対象者へのフィードバックレポートの送付（制度背景の説明と、抗体検査受検の呼びかけ）
 - 2023年4月～2024年現在：上記アンケートの未回答者や、抗体検査／予防接種の未実施者に対して、保健師等から抗体検査実施有無を個別確認
- ✓ 対象者への周知等に加えて、風しんや、風しんの追加的対策への全社的な理解促進のため、教育講演の実施や、毎年2月4日の「風しんの日」を迎えるにあたっての社内啓発（国内トップによるメッセージ発信や各事業場でのデジタルサイネージ掲載、健保組合冊子への啓発記事掲載 等）を合わせて実施した
- ✓ 結果として、対象者の約75.5%において、抗体検査の実施を確認した（2024年12月5日時点）

※1：企業には強制力を持つ根拠がないなかで、対象者への呼びかけや確認を行う際には、個人情報の取り扱いへの注意に加えて、ハラスメントと誤解を受けないような配慮を行いながら実施しました。

※2：取組で実施したアンケート調査は認識に関する実態把握と啓発を目的とした活動の一環として行われたものであり、学術的調査として計画・実施されたものではありません。

タケダにおける抗体検査促進および啓発の取組



2019

2020

2021

2022

2023

2024

風しんの追加的対策における当社取組を通じて得られた知見



得られた知見

対象者の行動を促すためには、以下の観点を取り入れた施策を計画・実行すべきである

➤ 制度背景・目的の理解

- ✓ 具体的にどのような行動を行う必要があるかまでが理解されるような、情報の発信や機会の提供が有効であった
- ✓ なお、風しんの追加的対策に限らず、そもそも予防接種制度に対する従業員の理解は、今後の継続的な課題として認識した

➤ アクセスしやすい体制の整備

- ✓ 健康診断時に同時に受検できる体制を整えた上で、健康診断時のクーポン券持参を呼びかけたことは、効果的であった

➤ くり返しのコミュニケーション

- ✓ 厚生労働省からの情報発信や、自治体からのクーポン券送付は、抗体検査受検を促していた
- ✓ 対象者が情報を得る媒体や、情報を認知するタイミングも様々であるため、同じ施策をくり返し実施したり、複数施策を組み合わせて実施することで、認知度の向上が示唆された
- ✓ メールによる確認も、安全衛生部門による一斉発信から、身近な医療関係者による個別連絡に変更することで、対象者の応答は変化した
- ✓ 直接や個別のコミュニケーションは効果的であった

※ 法定の健康診断とは異なり、風しんの追加的対策における抗体検査の受検状況について、最初から全対象者に個別確認する判断には至らなかったが、他の方法でも確認が困難な対象者への対応として実施した

タケダにおける抗体検査促進および啓発の取組



抗体検査実施率（推定）

54.9% (2023.3月時点)

2021-2023

対象者へのアンケート実施
+フィードバックレポート送付



2023

アンケート未回答者対象
健診後面談等での個別確認



2019～現在
健診案内時
クーポン持参リマインド

2022-2024

トップからのメッセージ
社内広報媒体での啓発
従業員向けイベントでのレクチャー 等

2023

健保組合冊子への啓発記事掲載

2019

2020

2021

2022

2023

2024

健診案内送付時に、風しん第5期対象者にクーポン券持参を呼び掛け



- ✓ 定期健診の案内送付時に、風しん第5期対象者には右記の文書を同封
 - ※ 社内対象者のうち、社内診療所を利用できる者
- ✓ 風しん第5期定期接種の対象者であることの通知とともに、健診時の抗体検査受検を推奨
 - ※ 社内診療所等、会社が指定した会場で健診を受ける対象者は、クーポン券を使用しての抗体検査受検が可能

- ✓ 2019年9月より右記文書を同封、抗体検査受検の促進が期待されたが、2020年からの新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、健診実施にも影響があり、抗体検査受検の推進が滞った
- ✓ 社外の医療機関でクーポン券を使用して抗体検査を受けた場合は、把握できない
- ✓ 対象者全員に抗体検査を受けてもらうために、実態把握や課題の整理、対策の検討が必要となった

社内対象者へのアンケート実施を計画

(この用紙が届いたあなたが対象です)

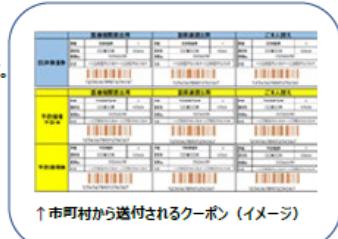
風しんの抗体検査はお済みですか？

無料クーポンが利用できます

厚生労働省による風しん感染拡大の防止施策として、公的な接種を受ける機会がなかった男性を対象に風しん抗体検査・ワクチン接種の無料クーポン券が自治体より発送されています。
結核予防会の定期健診時にそのクーポン券を持参いただきますと、風しん抗体検査を合わせて受けることができますので、この機会にぜひ受検くださいますようお願い申し上げます。

- 対象者
1962（昭和37）年4月2日～1979（昭和54）年4月1日生まれの男性
（注意）健康診断の当日にクーポン券を提示しなければ、風しん抗体検査は受けられません。

- クーポン券について
 - 住民票がある市区町村からクーポン券が届きます。
 - 2025年3月31日まで抗体検査・予防接種を公費で受けられます。
 - 引っ越しされた方、クーポン券が届いたか不明・紛失された方は
お住まいの市区町村にお問い合わせください。



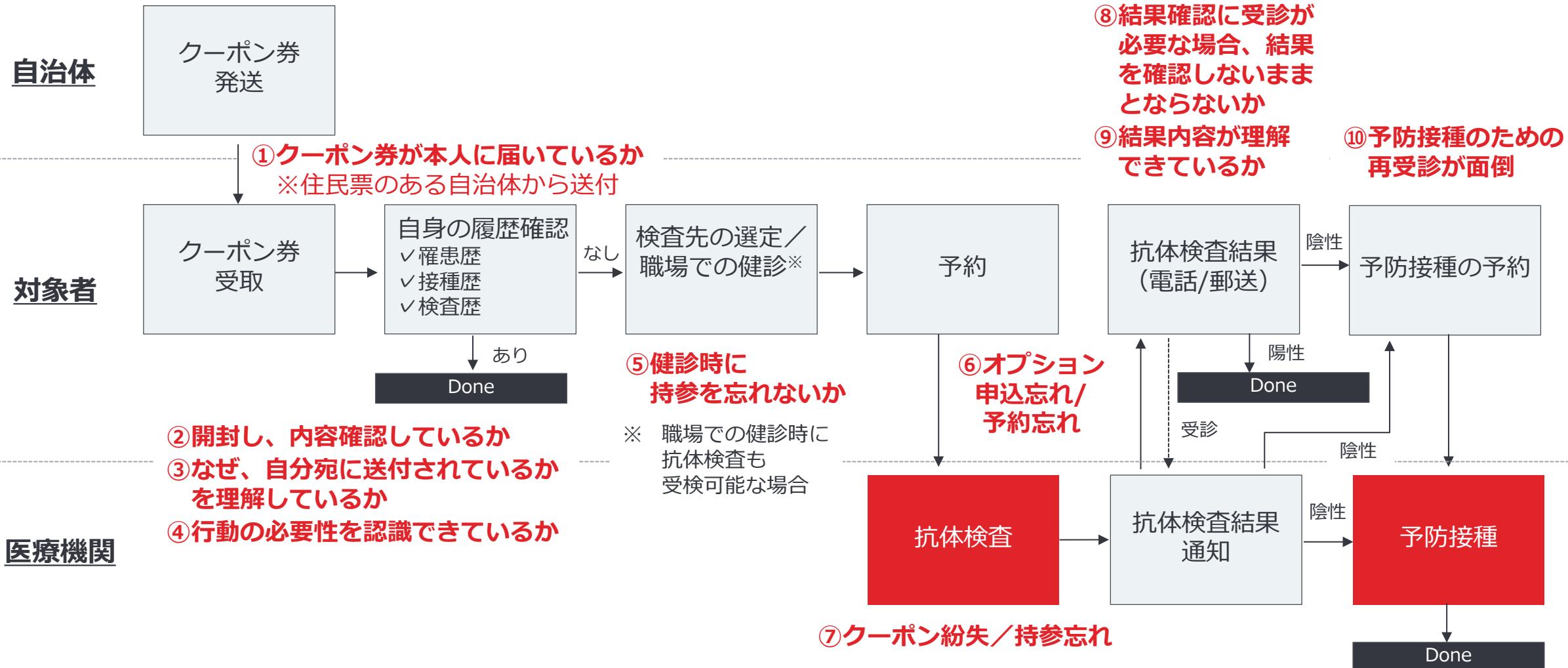
↑市町村から送付されるクーポン（イメージ）

- クーポン券を利用した抗体検査の結果送付とワクチン接種について
結果は自宅宛てに郵送され、ワクチン接種が必要な場合には「定期接種対象（抗体なし）」と表記されていますので、予防接種（原則無料）を受けてください。
※ ●●●●は予防接種を実施しておりますが、必ず事前に電話連絡をしてください。
(TEL: XXX-XXX-XXXX)
- 風しんからあなた自身と周りの人を守るために
風しんの予防接種は、現在、予防接種法に基づき公的に行われていますが、その機会がなかった年代の方は抗体保有率が他の世代に比べて低く、風しん患者が多く発生しています。
風しんは感染力が強く、特に妊娠早期の妊婦が感染すると出生児が先天性風しん症候群（心疾患、白内障、難聴など）になる可能性が高くなります。

<問い合わせ先>

●●●●診療所

クーポン発送から、定期健診での抗体検査／予防接種までの対象者の想定行動プロセス



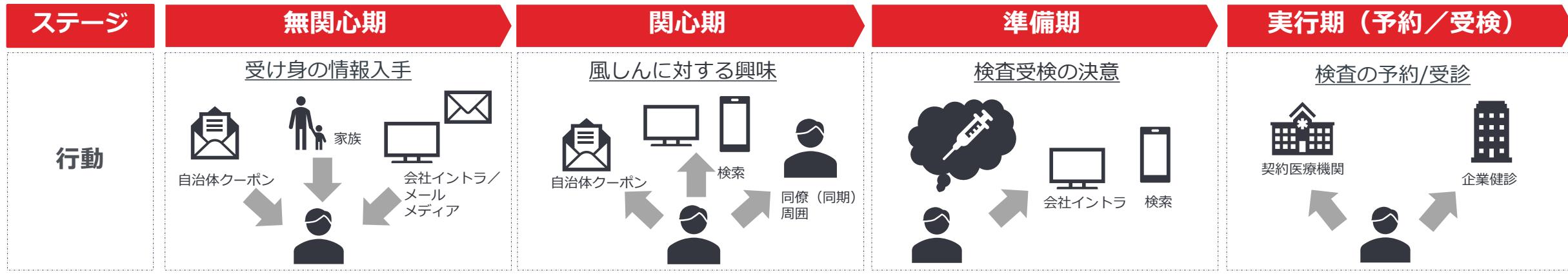
対象者の想定行動プロセスにおいて、抗体検査の受検率低下を招く可能性のある場面を仮定

風しん第5期定期接種 対象者の想定Journey（職場定期健診での抗体検査）



ステージ	無関心期	関心期	準備期	実行期（予約／受検）
行動	<p>受け身の情報入手</p>	<p>風しんに対する興味</p>	<p>検査受検の決意</p>	<p>検査の予約/受診</p>
行動詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体クーポンの受け取り ・各種メディア情報への接触 ・家族からの声掛け 	<ul style="list-style-type: none"> ・クーポン同封書類の読み込み ・能動的な情報検索 ・同僚（同期）、周囲に聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・検査機会／場所の選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・予約の事務手続き（電話/インターネット申し込み/申込書） ・物理的な移動および受診
障壁/課題	<ul style="list-style-type: none"> □ 情報が伝わらない □ 無関心 □ 疾患に対する知識、情報不足 	<ul style="list-style-type: none"> □ 関心が維持できない <ul style="list-style-type: none"> - 必要な情報へのアクセスが分からぬ等 □ 疾患に対する知識、情報不足 □ 忘却・失念 	<ul style="list-style-type: none"> □ 関心が維持できない <ul style="list-style-type: none"> - 予約が必要、クーポン券の再発行が必要 等 □ 疾患に関する知識、情報不足 □ 時間的制約／心理的負担 □ 忘却・失念 	<ul style="list-style-type: none"> □ 時間的制約／心理的負担 □ 疾患に関する知識、情報不足 □ 忘却・失念

対象者に想定される課題から、行動変容を促せるような対策を立案



【無関心期 → 関心期 → 準備期】

- 対象者には、定期検診の案内に、抗体検査の受検と、クーポン券の持参を呼び掛ける通知を同封（継続）
- ご家族への啓発・情報提供のため、健保組合と連携し、各自宅に送付される冊子に風しん第5期に関する記事を掲載

【無関心期 → 関心期 → 準備期 → 実行期】

- 対象者に、クーポン券利用を確認するアンケートを実施
(+クーポン券利用者には自身の行動を後押しした取組、未使用者にはその理由を確認)
- アンケート実施後はフィードバックレポートを作成し、アンケート送付対象者に送付（啓発、検査受検へのアクセス改善）
※アンケートのフィードバックレポートは、各事業場での安全衛生委員会でも紹介
- 2/4 「風しんの日」前後を啓発期間とし、社内イントラにてトップによる疾患啓発メッセージを発信
- 社内の健康経営担当部門と連携し、社員／職場への疾患教育機会を創出（風しんと予防接種に関するレクチャー）

【準備期 → 実行期】

- 各社内診療所で抗体検査／予防接種が受けられる体制を整備（継続）
- 予約や問合せがしやすくなるよう、各事業場診療所の問合せ先、予約の要否をアンケートのフィードバックレポートに記載

対策案

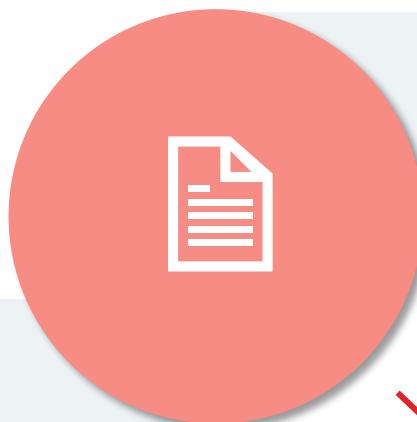
タケダにおける抗体検査促進および啓発の取組

抗体検査実施率（推定）

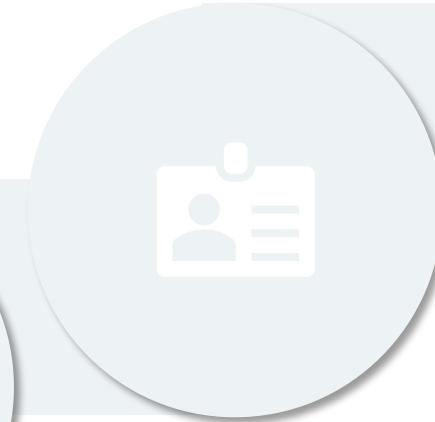
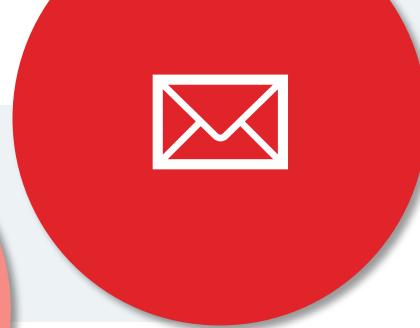
54.9% (2023.3月時点)

2021-2023

対象者へのアンケート実施
+ フィードバックレポート送付



2019～現在
健診案内時
クーポン持参リマインド



2023
アンケート未回答者対象
健診後面談等での個別確認

2022-2024

トップからのメッセージ
社内広報媒体での啓発
従業員向けイベントでのレクチャー 等

2023

健保組合冊子への啓発記事掲載

2019

2020

2021

2022

2023

2024

＜実施目的＞

社内の風しん第5期定期接種対象者への啓発および対象者であることの通知
クーポン券利用状況の確認（抗体検査実施率／抗体保有率の把握）
抗体検査の受検や対象者の行動に影響を与えた取組策の確認、対象者の認識の確認

＜方法＞

風しん第5期対象者宛に、安全衛生担当よりメールにて連絡

＜形式＞

Webアンケート

※アンケート実施目的を説明の上、結果の二次利用についても同意取得の上で実施

＜制限：アンケート結果を読み取る際の注意点＞

- ✓ アンケートを計4回実施する間には入退社があり、完全に同じ対象者のみの解析ではないことから、アンケート結果は推定値の域を出ない
- ✓ アンケートは各人が正直に回答していると言う性善説に基づいて集計しており、複数回目のアンケートの数値は過大評価となっている可能性を排除できない

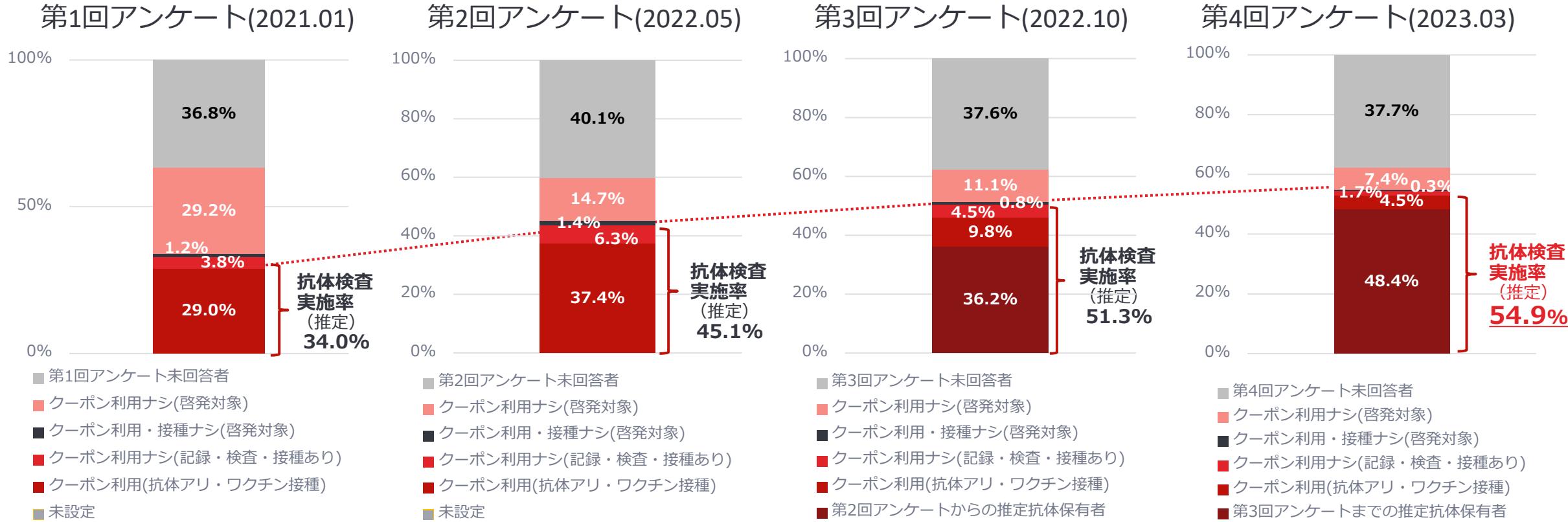
注；本アンケート調査は認識に関する実態把握と啓発を目的とした活動の一環として行われたものであり、学術的調査として計画・実施されたものではありません。

<設問（全7問）>

1. クーポン券を利用して抗体検査を受けたか？
→ クーポン券利用のなかった方はここで回答を終了
2. クーポンを利用しようと思ったきっかけ（媒体）はあったか？
→ 社内風しんプロジェクトによる啓発活動での取組策を含め、影響した要素を確認
3. どこで抗体検査を受けたか？
→ 社内診療所／社外の医療機関
4. 抗体検査実施後、クーポン券を利用してワクチンを接種したか？
5. ワクチンはどこで接種したか？
→ 社内診療所／社外の医療機関
6. 抗体検査実施後クーポン券を利用してワクチンを接種していない理由
7. 抗体検査を受けなかつた理由

注；本アンケート調査は認識に関する実態把握と啓発を目的とした活動の一環として行われたものであり、学術的調査として計画・実施されたものではありません。

社内風しん第5期定期接種対象者の抗体検査実施率（推定）の推移



- ✓ アンケートには回答しつつも、クーポン券を使用していないと回答した群の比率がアンケートを重ねるごとに減っており、この層に対して啓発活動が効果を示している事が推察された。
- ✓ 第3回アンケート時点で抗体検査実施率（推定）は過半数を超えた、第4回アンケート時点では54.9%であった。
- ✓ 無関心層とも受け取れる一定数のアンケート未回答者が存在し、自由意思を尊重した啓発・調査の限界が示唆される。

注；本アンケート調査は認識に関する実態把握と啓発を目的とした活動の一環として行われたものであり、学術的調査として計画・実施されたものではありません。

事業場別：クーポン券を利用しようと思ったきっかけ（第2回アンケート）



※アンケートは複数回答可で実施

	事業場A	事業場B	事業場C	事業場D	事業場E	事業場F	全社
厚生労働省のテレビコマーシャルなどのPR	13.6%	13.3%	18.6%	16.4%	21.7%	16.9%	17.0%
自主的に	4.5%	6.3%	15.7%	0.0%	3.9%	0.7%	6.8%
自治体からクーポンが届いたため	19.3%	12.0%	14.8%	14.8%	6.2%	6.6%	11.9%
第三者に勧められて	3.4%	1.9%	7.1%	1.6%	1.6%	0.7%	3.2%
健康診断時の案内	38.6%	36.7%	15.7%	34.4%	33.3%	43.4%	31.7%
社内インターネットの記事	6.8%	13.3%	9.5%	9.8%	14.0%	10.3%	10.9%
安全衛生委員会からの情報発信	4.5%	3.2%	7.1%	16.4%	13.2%	11.8%	8.6%
前回のアンケート調査 ('21.01実施)	5.7%	4.4%	4.8%	3.3%	3.9%	4.4%	4.5%
その他	3.4%	8.9%	6.7%	3.3%	2.3%	5.1%	5.5%

55.6%

- ✓ のべ回答数で最も行動に影響を与えたのは『健康診断時の案内』（同封）で、事業場毎でも同じ傾向であった
- ✓ 全社で見ると啓発活動（赤文字）の影響を受けた方が過半数を超えており、啓発活動に一定の成果があった事がうかがえた
- ✓ 『健康診断時の案内』の比率が低くなっている事業場には社内診療所の設置がなく、クーポン券持参の案内が同封されていない方が多いことが要因だと推定された

注；本アンケート調査は認識に関する実態把握と啓発を目的とした活動の一環として行われたものであり、学術的調査として計画・実施されたものではありません。

風しん第5期 社内対象者アンケートのフィードバックレポートの概要



風しん第5期 社内対象者アンケート（2回目）

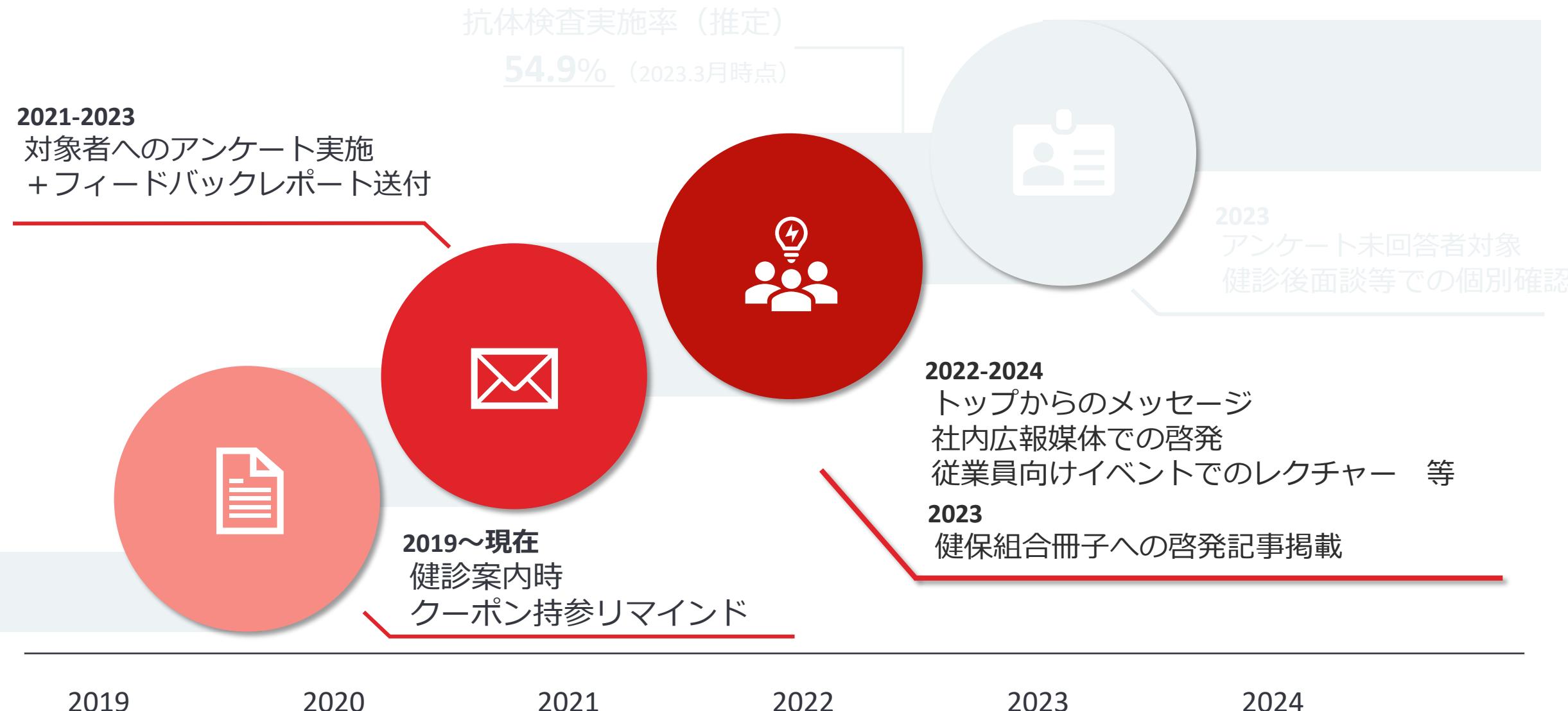
- ✓ アンケート送付対象者：社内風しん第5期対象者（全員）
- ✓ アンケート回答率は59.9%
- ✓ 抗体検査を受けていない理由は「クーポン券の紛失、転居等」、「(風しん罹患の)記憶がある」、「コロナ禍で医療機関受診を躊躇」、「時間が取れない」
- ✓ 啓発目的で、フィードバックレポートには結果に加えて①～③の情報を記載
 - ① 罹患“記憶”はあてにならないこと
 - ② クーポン券の再発行/医療機関検索方法
 - ③ 風しん第5期対象者が利用できる社内診療所の抗体検査/予防接種実施状況と問合せ先を案内

風しん第5期 社内対象者アンケート（3回目）

- ✓ 3回目のアンケート送付対象者は、2回目の未回答者 + クーポン券使用の予定があると選択した方
- ✓ アンケート回答率は41.1%
- ✓ 抗体検査を受けていない理由は、多かった順に、「(風しん罹患の)記憶がある」、「クーポン券の紛失」、「異動・転居・単身赴任（留守宅に送付されている）」、「時間が取れない」
- ✓ 罹患“記憶”に頼っている可能性を仮定し、①～③の解説・情報とともに**抗体検査の受検を呼び掛け**
 - ① 罹患“記憶”はあてにならないこと
 - ② クーポン券の再発行/医療機関検索URLへのリンクを共有
 - ③ 風しん第5期対象者が利用できる社内診療所の抗体検査/予防接種実施状況と、予約の要／不要、問合せ先を記載

注；本アンケート調査は認識に関する実態把握と啓発を目的とした活動の一環として行われたものであり、学術的調査として計画・実施されたものではありません。

タケダにおける抗体検査促進および啓発の取組



2/4「風しんの日」に向けた、風しん/抗体検査の社内啓発活動



目的

風しんの日に連動した社内啓発キャンペーンを行うことで、社員の風しんに対するAwarenessを向上させる

1. 国内トップによる 全社メッセージ発信

- ◆ 発信日：2/1
- ◆ 媒体：社内インターネット

「風しんの無い世界」の実現のために、今私たちができること

anzen_eisei
安全衛生

タケダの皆さん

2月4日は「風しんの日」です。風しんは「三日ばしか」とも呼ばれるウイルス感染症で、感染すると発熱や発疹、リンパ節の腫れ等の症状が起こります。症状は軽いもののがほとんどで、無症状の場合もありますが、感染力が非常に強いため、感染したことに気づかないうちに周りの人々に感染を広げてしまうことがあります。風しんが恐ろしいのは、妊婦が風しんに感染すると、生まれてくる子どもの耳や、心臓、発達等に重い障がい（先天性風しん症候群、CRS）を引き起こす可能性があるためです。

風しんはワクチンで予防することができますが、日本では残念ながら数年毎に流行を繰り返しています。これは、過去の風しんの予防接種が女性や子どもから開始され、徐々にその対象範囲が拡大されたため、ワクチン接種を受ける機会が無く免疫を持たない成人男性の割合が大きいことが一因と考えられています。実際に2018年から2021年の4年間に日本で風しんと確定診断された5,350例のうち、男性が80%を占め、ワクチンの接種記録が確認できない人が全体の92%を占めたというデータがあります。

出稿

- 風しん／抗体検査の啓発メッセージを全社メッセージとして掲載
- 風しん第5期定期接種対象者には同時にメッセージ内容をメール配信

2. デジタルサイネージ

- ◆ 出稿期間：2/4の前後1週間
- ◆ 媒体：各拠点（本社、工場等）のデジタルサイネージ

2月4日は「風しんの日」です

「風しんの無い世界」の実現のために私たちができること

妊婦さんが風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに障がいが起きる可能性があります

風しんはワクチンで予防できます

ワクチン未接種世代である現在42歳～59歳の男性
(1962年4月2日～1979年4月1日生)は、
現在第5期定期接種の対象です
まずは抗体検査を受診してください

詳しくは2月4日掲載予定のmyTakedaニュースをご覧ください

Better Health, Brighter Future



3. トップメッセージへのリンク

- ◆ 出稿期間：2/4の前後1週間

2月4日は「風しんの日」です

妊婦さんが風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに障がいが起きる可能性があります

風しんはワクチンで予防できます
ワクチン未接種世代である現在42歳～59歳の男性
(1962年4月2日～1979年4月1日生)
第5期定期接種の対象です。
まずは抗体検査を受診してください

Click here

バナー掲載

※クリックすると
1. トップメッセージにアクセス

- 社内インターネットにて、疾患啓発メッセージと社内での抗体検査受検方法を掲載

- ✓ 健保組合の協力のもと、加入者宅に送付される「健保ニュース」に、風しん第5期定期接種をはじめとする成人の予防接種に関する記事を掲載
- ✓ 風しん第5期定期接種が2024年度までの有限であることや、抗体検査受検の推進、クーポン券を紛失した場合の対応などを記載

麻しん・風しん混合(MR)ワクチン

麻しん・風しん混合(MR)ワクチンは、麻しん(はしか)、風しんを予防するワクチンです。麻しん、風しんともに感染力が強い病気です。麻しんウイルスに感染すると、高熱やせき、鼻水といったかぜのような症状、全身の発疹がおこります。風しんは、風しんウイルスの感染によりかぜのような症状とともに全身に赤い発疹、首のリンパの腫れなどがおこります。とくに、妊娠中の女性が風しんに感染した場合に赤ちゃんに重い障害が出る可能性があります[※]。事前のワクチン接種で流行をおさないことが大切です。

※先天性風疹症候群

妊娠中の女性が風しんに感染すると、胎児が心臓病、難聴、白内障などを持って生まれる恐れがあります。先天性風疹症候群を防ぐためには、男性を含めて多くの人が予防接種を受けて風しんの流行をおさないことです。女性は妊娠前に抗体の有無の確認と予防接種を受けておきましょう。また、妊娠を希望する女性と同居される方へも抗体検査や予防接種の助成がある場合があります。
お住まいの自治体HPをご確認ください。

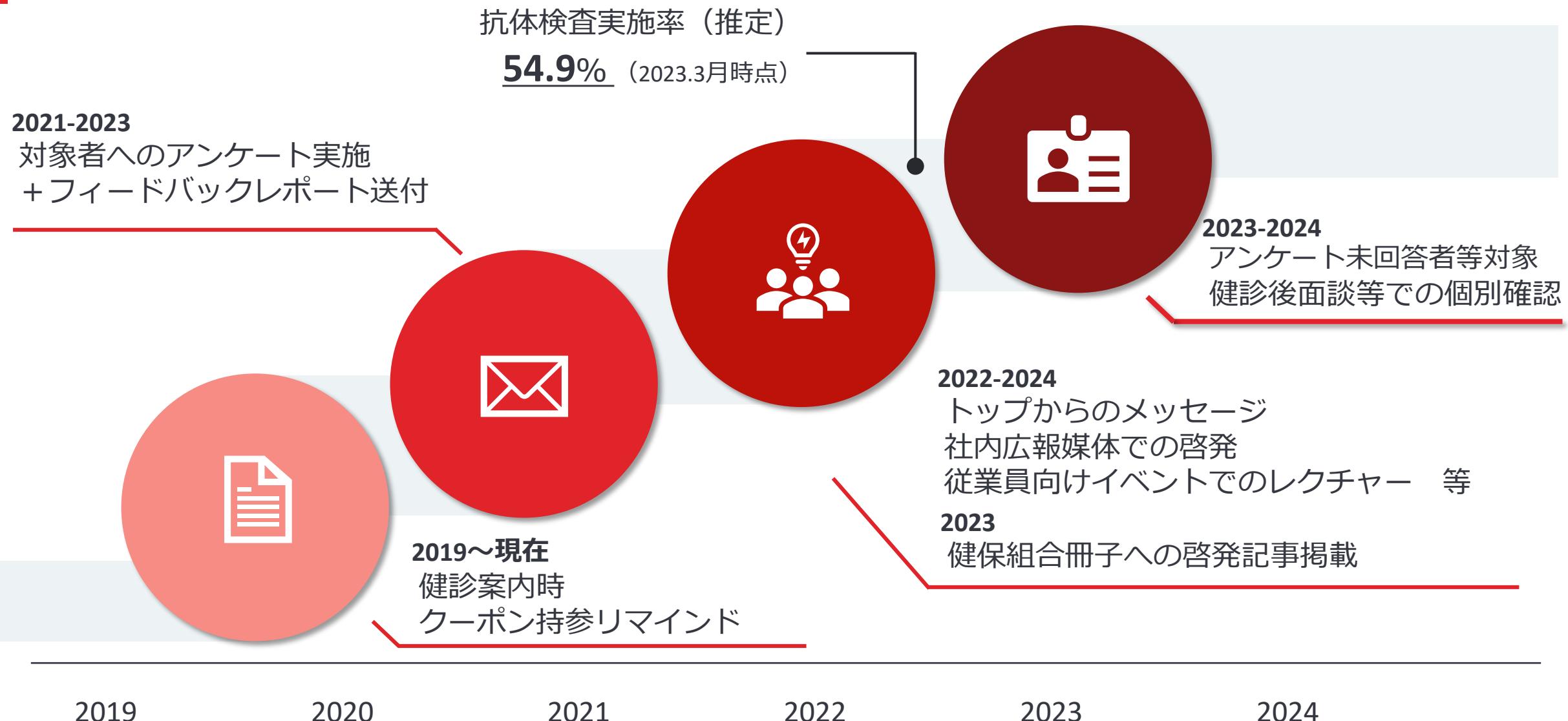


ご確認
ください!!

風疹第5期定期接種の対象者：昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性
2024年度まで風しん抗体検査・ワクチン接種、無料

風しんの流行を防ぐため、過去の制度上、風しんの予防接種を受ける機会がなかった男性を対象に抗体検査とワクチン接種を無料で実施しています。まずは、抗体検査を受けましょう。抗体値が不十分な場合にワクチン接種が受けられます。クーポン券が届いていない方やクーポン券をなくされた方は、お住まいの自治体にお問い合わせください。

タケダにおける抗体検査促進および啓発の取組



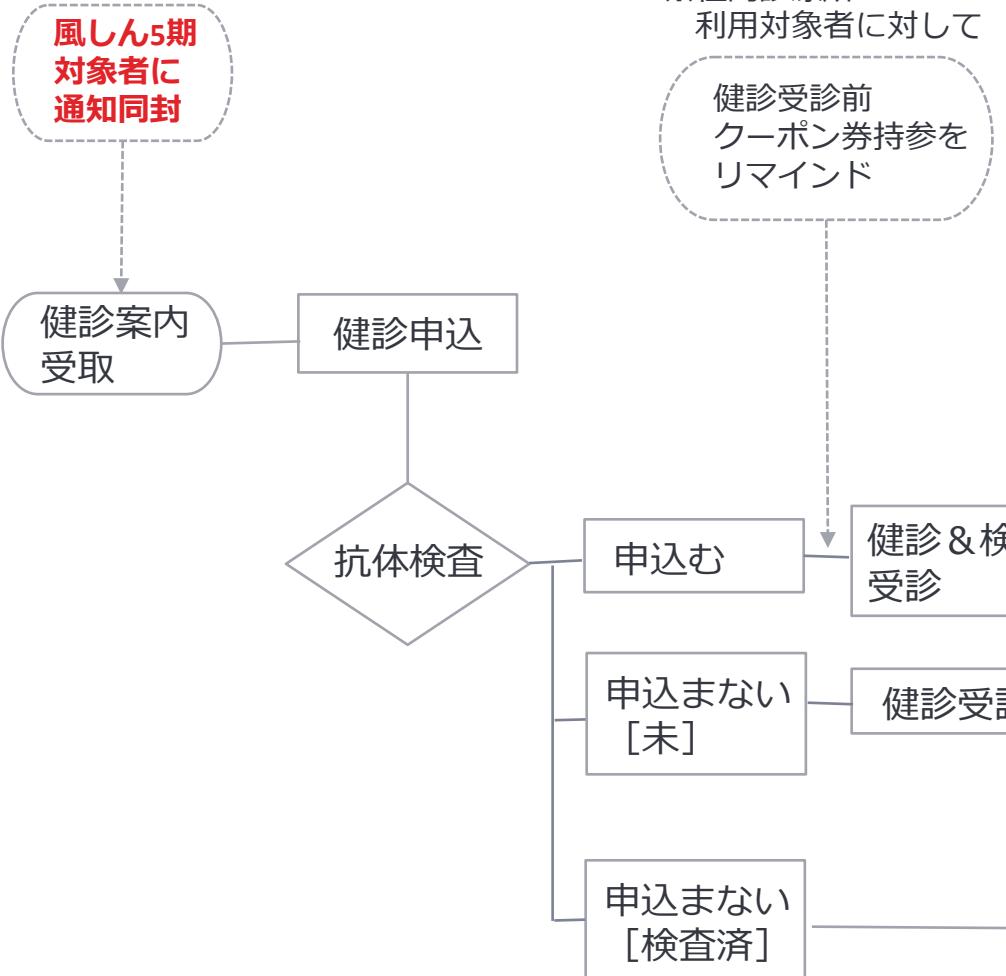
2023-2024 健診後面談等での個別確認



安全衛生
管理部門

産業医／
保健師

対象者



2023-2024 取組

- ✓ 対象：2023年3月時点におけるアンケート未回答者、検査未実施との回答者、検査後抗体陰性でもワクチン接種未実施者

※ 風しん第5期定期接種対象者の45.1%に相当

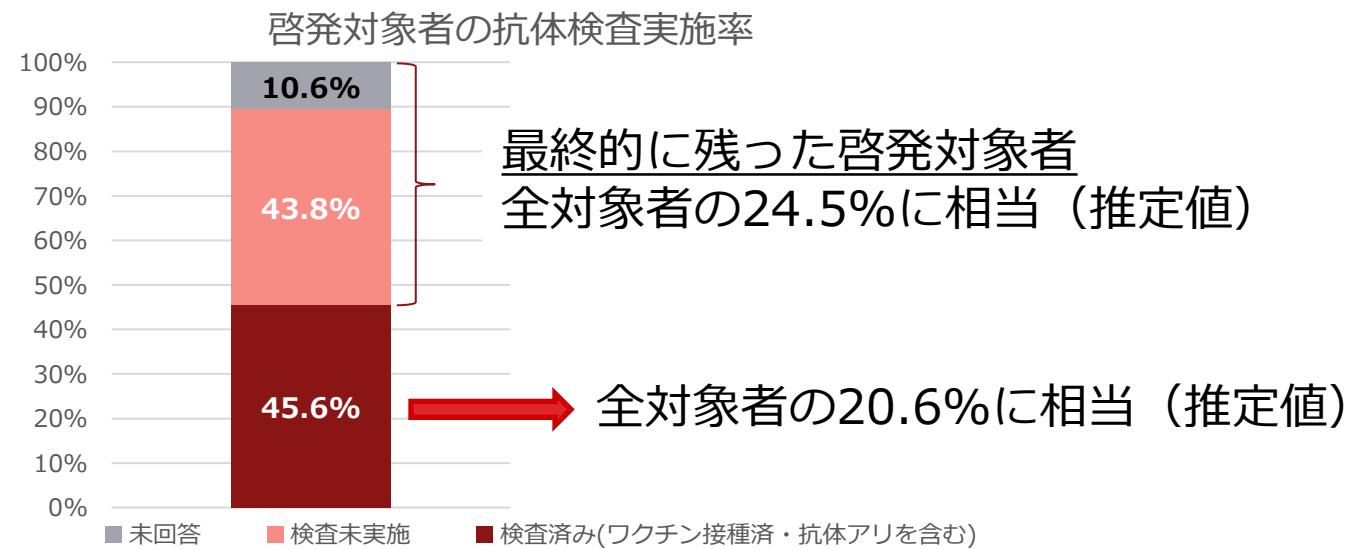
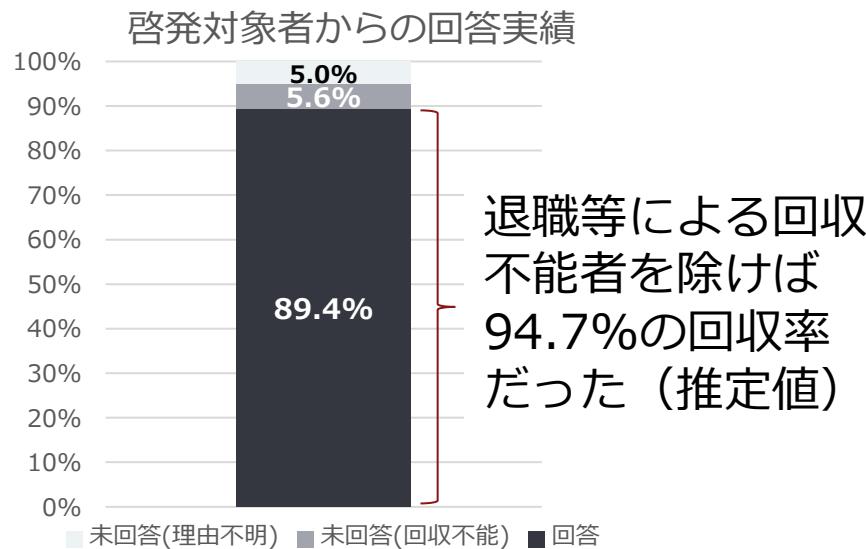
個別面談

- ✓ 取組：事業場環境に拠らず全社員が受け
る健診後面談等にて、抗体検査受検の有
無を個別に確認

2023年3月時点における、啓発対象者45.1%の方への 保健師等*を通じたコミュニケーションの成果



*:武田薬品では健康診断後のフォローワー面談や各種健康相談のため、各事業場に担当保健師を配置または委託



- 2023年3月時点における啓発対象者（アンケート未回答者、検査未実施との回答者、検査後抗体陰性でもワクチン接種未実施者）を抽出しているが（風しん第5期定期接種対象者の45.1%に相当）、啓発対象者の抽出時期と啓発実施時期に多少のずれがあり、抽出時点よりも約8.9%、啓発実施対象者は減っている
 - アンケートや面談の回答に関する検証は行っていない
 - グラフ内の数字は今回の検討を示した数字であるが、全対象者の45.1%が今回の啓発対象者として抽出されていることを前提として、風しん第5期定期接種全対象者における割合を推定値として算出している

✓ 従業員に身近な健康管理としての保健師等からの問い合わせ（面談・メール）には、過去4回のアンケートに無回答だった方々（対象者の約4割）の大半が回答した（回収不能の5.6%を除けば94.7%の回収率であった）

✓ 最終的に抗体検査の確認できなかった24.5%（残留啓発対象者45.1%に基づく推定値）を差し引いた方々を抗体検査実施者とした今回の調査結果から、当社における抗体検査実施率は約75.5%と推定された（以後の抗体検査が不要という意味で、事前にワクチンの接種実績や抗体測定実績のある方も含めているため、クーポン券の利用率とは必ずしも一致しない）

2023年3月時点における、啓発対象者45.1%の方への
保健師等*を通じたコミュニケーションにおいて得られた気づき



＜当社のFY23-24取組＞

社内の風しん追加的対策の対象者（以下、対象者）に対して、2023年3月までの間に最大で計4回、メールにてアンケート送付し、自治体から対象者宛に郵送されているクーポン券を使用して風しん抗体検査を受けたかの確認を行った。アンケートに「未回答」、もしくは「検査／予防接種の未実施」と回答した対象者（社内全対象者の45.1%に相当。以下、啓発対象者）に対して、所属事業場の保健師等が抗体検査の実施有無について、健康診断後の個別面談等の際に、個別に確認した。

工夫した点／奏功した点

- ✓ 限られたヒアリングに基づくが、個別確認を遂行できた背景には、コミュニケーションにおける工夫や気づきが確認された
 - メール送付で返答が得られない啓発対象者に対して、面談で確認を行うことが効果的であった
 - 複数の方法を組合せたアプローチ（個別面談、メール/チャット送付、社内で会った際の声掛け等）や、相手に合わせたアプローチ方法の調整が有効であった
 - 丁寧な説明や同意取得を行うことによって啓発対象者の理解が得られ、回答の協力に結び付いた
 - メール発信に工夫を行うことで回答を得られた（システムからではなく個人名で送付する、回答にかかる負担を減らす等）

困難であった点

- ✓ 個別確認にあたった保健師等の方々には、特に未回答者に対して何度もメール送付することへの心理的負担が確認された
※ 医療関係者からのアプローチであったが、期間中、啓発対象者に強要と受け取られないよう注意が払われた上で確認が実施された
 - ✓ 保健師等の方々と啓発対象者（従業員）との日頃からの関係性の有無によって負担の感じ方の差が伺えた
 - ✓ すべての啓発対象者において、風しん追加的対策の背景や目的が理解され、抗体検査を受けていただくことは叶わなかつた
 - ✓ 医療関係者であっても、予防接種制度（定期接種/任意接種、接種勧奨義務等）について正確な認識を持ってていない場合があり、保健師の方々が個別確認する目的や制度・背景の理解が得られるような体制の構築、および、疑問点や課題を解消できるような継続した支援が十分には行えていなかつた
 - ✓ 啓発対象者が抗体検査を受けたかについて、記録ではなく、啓発対象者の記憶に基づく確認となる限界があつた
 - ✓ 健康診断後の個別面談を受けず、メールにも応答がない啓発対象者に対して、それ以上、介入する手立てが見当たらなかつた

タケダについて

私たちのパーカス（存在意義）は、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献することです。サイエンスや技術が進化しても、揺るぎない価値観に基づいた私たちの志は変わりません。

人々の暮らしを豊かにする医薬品をお届けし、社会に貢献するとともに、従業員が理想的な働き方を実現できる環境づくりに努めています。



タケダの企業理念



私たちの存在意義

世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献する

私たちが目指す未来

すべての患者さんのために、ともに働く仲間のために、
いのちを育む地球のために。

私たちはこの約束を胸に、革新的な医薬品を創出し続けます。

私たちの価値観: タケダイズム

タケダイズムとは、まず誠実であること。それは公正・正直・不屈の精神で支えられた、私たちが大切にしている価値観です。

- 私たちはこれを道しるべとしながら、「1. 患者さんに寄り添い (Patient)
2. 人々と信頼関係を築き (Trust) 3. 社会的評価を向上させ (Reputation)
4. 事業を発展させる (Business)」を日々の行動指針とします。

私たちの約束

PATIENT

すべての患者さんのために

- 希少疾患を含め、多くの患者さんが開発を待ち望んでいる医薬品とワクチンを、可能な限り早く、かつ高品質でお届けできるよう全力を尽くします。

PEOPLE

ともに働く
仲間のために

- 持続可能な医療システムの確立に向けて、さまざまな人々と幅広いパートナーシップを結びます。

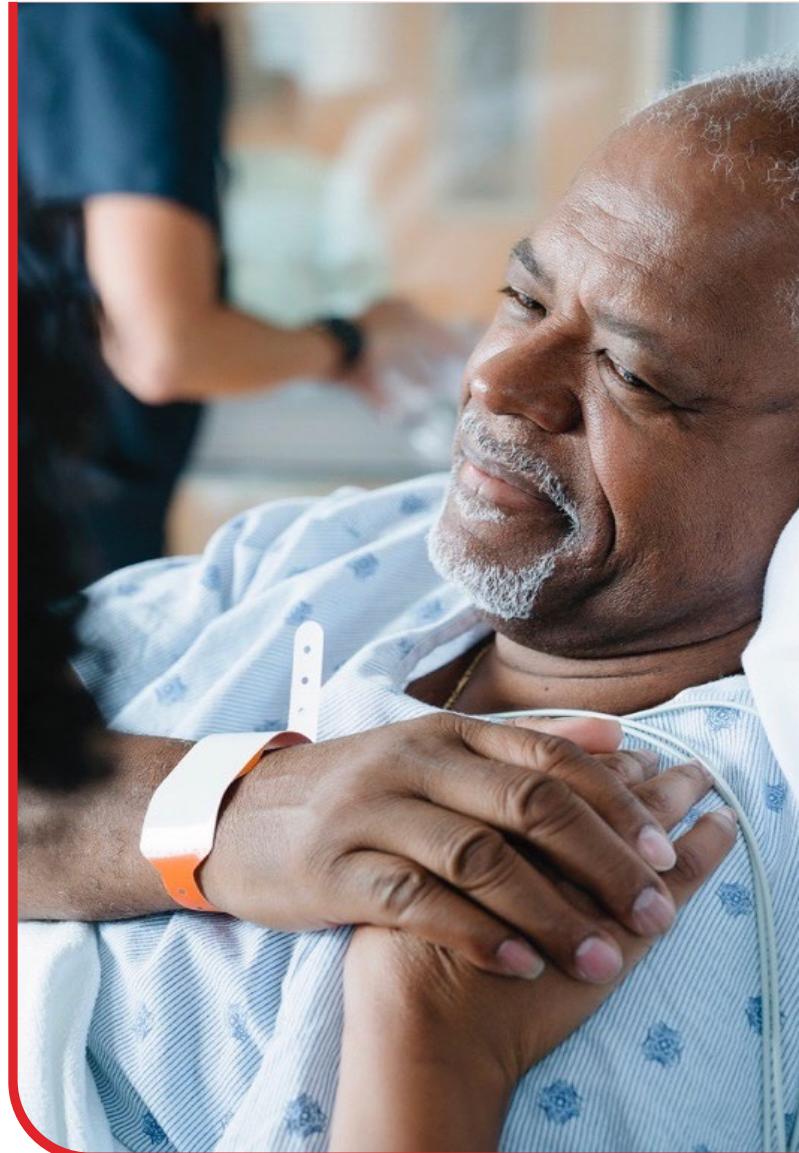
PLANET

いのちを育む
地球のために

- 目指す未来を共有しながら、一人ひとりが自分の可能性を引き出し、お互いの個性を認め合う、多様性にあふれた先進的な組織を築きます。
- 地球の生態系と人々の健康を守るために、タケダの先端技術を結集し、環境に対する高い問題意識をもって、世界をリードします。

データとデジタルの力で、イノベーションを起こします

- データに基づき、成果にフォーカスした、最も信頼されるバイオ医薬品企業に変革するよう努めます。



グローバルなバイオ医薬品企業



グローバル本社

東京 日本橋

約25
臨床試験段階にある
新規医薬品候補

25+ 製造拠点

2 研究拠点

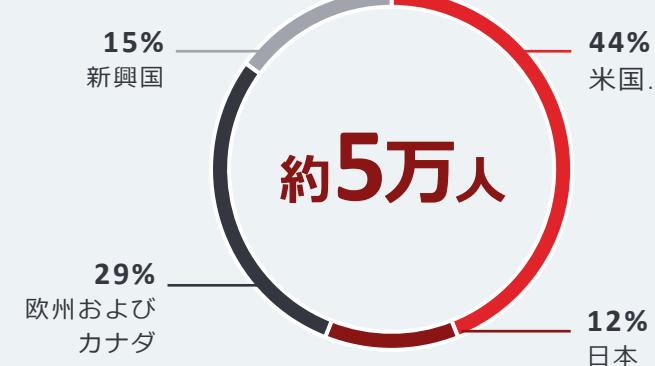
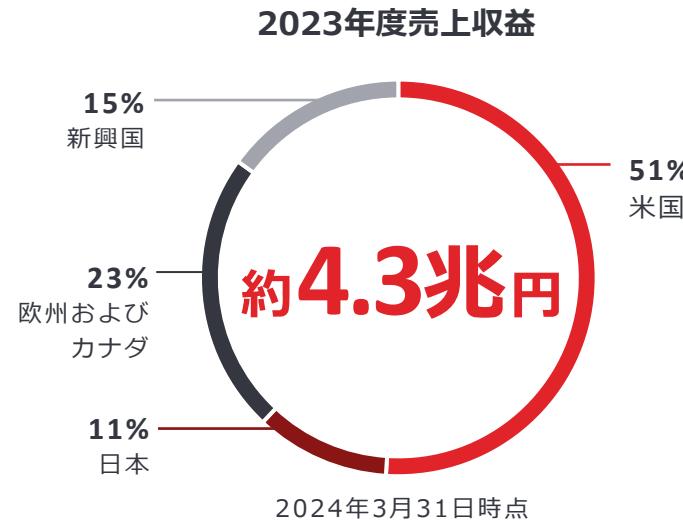
180+ 積極的な
パートナーシップ
革新的なアイデアを実現するために

グローバルハブ
米国 マサチューセッツ州
ボストン地区 ケンブリッジ

グローバル拠点
約80 の国・地域

24
カ国

および3地域での
TOP EMPLOYER®認定



創業
1781年
大阪 道修町

従業員



Better Health, Brighter Future

© 2023 Takeda Pharmaceutical Company Limited. All rights reserved.